

承認の衝突

—障害者を対象とした承認論から見えてくる「承認」の矛盾—

社会福祉学科 福祉政策系 甲山紗衣

本研究では、福祉社会の目標として語られる「共生のための承認」を目指す言説や実践が実際には逆機能することも多い理由を、その典型の一つとして挙げられる障害者を対象とした承認の状況から分析を行う。その方法として、A.ホネットの承認概念を援用した承認の2分類である「①尊敬としての承認」と「②評価としての承認」が矛盾する「承認の衝突」と定義し、状況を整理する。これによって、承認の成立に寄与する多元的な構造を明らかにすることが目的である。

事例を通して分析した結果、「障害は個性」という「①尊敬としての承認」を示す言葉の利用により、現実に存在する社会的強者／弱者の構造をあいまいにすることができる状況が明らかになった。これは最悪の場合、「障害者を放っておいても良いという政治的レトリック」として、権利保障の実効性を欠く事態に陥る可能性がある。

したがって、障害者の権利保障の実効性を担保するための「②評価としての承認」の機能を維持しつつ、障害当事者が「社会に認められた」という感覚を得られるようにするために、「①尊敬としての承認」も両立させるための条件整備が必要であると考えられる。